

2017. **12**
No. **189**

調査レポート

県内勤労者の消費・貯蓄動向 ～第58回くらしのアンケートから～

要	約		1
1	家計の状況		3
2	今冬の買物計画		4
3	おけいこ事、塾・サークル		6
4	貯蓄		7
5	ローン等の利用		9
6	冬季ボーナス		10
7	お歳暮		12
8	冬休み、年末・年始の過ごし方		14

要 約

1. 家計の状況

- 1年前と比べた暮らし向きは、「良くなった」が7.6%、「悪くなった」が12.2%、「変わらない」が80.2%。県内景気は生産面を中心に緩やかに回復しているが、暮らし向きに関しては、依然として回答者の8割が「変わらない」としており、県内勤労者が生活改善を実感できるまでには至らず。
- 家計上の悩みは、「収入の伸び悩み」が最も多く、以下、「税金等負担増」、「物価上昇」の順。

2. 今冬の買物計画

- この冬購入したい商品は、「婦人服」が最多で、以下、「紳士服」、「子供服」、「ハンドバッグ・靴」、「スマートフォン」の順。
- 昨冬比で購入予定比率が上昇した品目は8品目。一方、低下した品目は10品目で、特に「紳士服」の低下が目立つ。
- 購入予定先は、「一般小売店」、「ホームセンター・大型専門店」、「インターネット」の順。「インターネット」は比率、順位ともに過去最高に。

3. おけいこ事、塾・サークル

- 参加したいおけいこ事や塾・サークルは、「料理」が1位で、以下、「ゴルフ」、「ダンス・フィットネス等」、「外国語会話」、「書道・絵画」、「手芸・編物・着付」の順。
- 年代別では、20代では、「料理」、「ゴルフ」、30代では、「ゴルフ」、「料理」、40代では、「料理」、「ダンス・フィットネス等」、50代以上では、「ダンス・フィットネス等」、「ゴルフ」が人気。

4. 貯 蓄

- 平均保有額は583万円で、昨冬比44万円増加。
- 現在利用している金融商品は、「銀行預金」、「ゆうちょ銀行貯金」、「投資信託」の順。また、今後増やしたい商品は、「銀行預金」、「投資信託」、「ゆうちょ銀行貯金」の順。
- 貯蓄する際重視する点は、「元金の保証があり安心」、「利回りが良い」、「預け入れ引き出しが自由」の順。昨冬と比べ収益性を重視する傾向が窺われる。

5. ローン等の利用

- ローン等の利用者は27.0%で、平均借入額は昨冬比61万円減の1,152万円。
- 利用目的は、「土地・住宅の購入」が最も多く、以下、「自動車・家電品の購入」、「教育資金」の順。
- 借入先は、「銀行」が最も多く、以下、「月賦・クレジット会社」、「銀行以外の金融機関」の順。

6. 冬季ボーナス

- 冬季ボーナスの予想は、「減りそう」が「増えそう」を上回り、両比率の差は昨冬と比べて拡大。県内企業の業況が緩やかな回復にとどまるなか、勤労者は今冬のボーナス支給について慎重な見方。
- 手取り予想額は、「1～20万円」が最も多く、以下、「31～40万円」、「21～30万円」、「41～50万円」の順。
- 使いみちは、「貯蓄」が最多で、以下、「買物」、「旅行・レジャー」、「ローン返済」の順。

7. お 歳 暮

- お歳暮を贈る予定者は、56.3%。贈る件数は「2件以下」が最多。平均件数は3.8件で、昨冬比0.2件の増加。
- 1件あたりの単価は、「5,000円程度」が最多。平均単価は4,071円と、昨冬（4,011円）から60円上昇。また、平均贈答件数も増加したことから、平均予算総額は15,489円と昨冬（14,458円）に比べて増加。
- 贈りたい商品は「ビール（含むビール券）」が最多で、以下、「ハム」、「お菓子」、「食用油」、「直送生鮮品」の順。

8. 冬休み、年末・年始の過ごし方

- 「特に予定なし」を除くと、「日帰り旅行」が最多で、以下、「帰省」、「国内宿泊旅行」、「スポーツ・健康づくり」、「海外旅行」の順。昨冬と比較すると、「国内宿泊旅行」、「日帰り旅行」、「海外旅行」が低下した一方、「スポーツ・健康づくり」、「帰省」は上昇。
- 国内宿泊旅行の宿泊数をみると、「1泊」が最も多く、以下、「2泊」、「3泊」の順。

● 調査実施要領

調査対象：県内の勤労者 1,088 名

調査方法：当行の営業店を通じ対象者に依頼

回答者数：1,062 名（回答率 97.6%）

調査時期：平成 29 年 10 月下旬～11 月上旬

〈 回 答 者 内 訳 〉

内訳	項 目	回答者数	構成比
年 代 別	20 代	252人	23.7%
	30 代	254	23.9
	40 代	248	23.4
	50 代 以 上	308	29.0
家 族	既 婚	694	65.3
	未 婚	368	34.7
性 別	男 性	525	49.4
	女 性	535	50.4
合 計		1,062	100.0

※ 合計には性別未回答者を含む

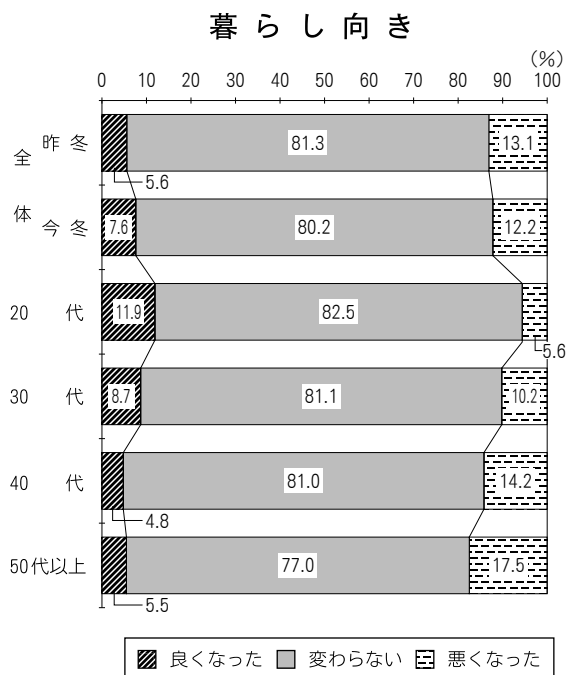
1 家計の状況

暮らし向きの改善実感には至らず

1年前と比べた暮らし向きは、「良くなった」が7.6%、「悪くなった」が12.2%、「変わらない」が80.2%となった。この結果、「良くなった」から「悪くなった」を引いた差は△4.6となった。

県内景気は生産面を中心に緩やかに回復しているが、暮らし向きに関しては、依然として回答者の8割が「変わらない」としており、県内勤労者が生活改善を実感できるまでには至っていない。

年代別にみると、「変わらない」は各年代とも8割前後となっており大きな差がみられない。また、「悪くなった」は20代では5.6%にとどまっている一方、40代では14.2%、50代以上では17.5%となっており、若年層よりも中高年層で生活費の負担感が強くなっている。

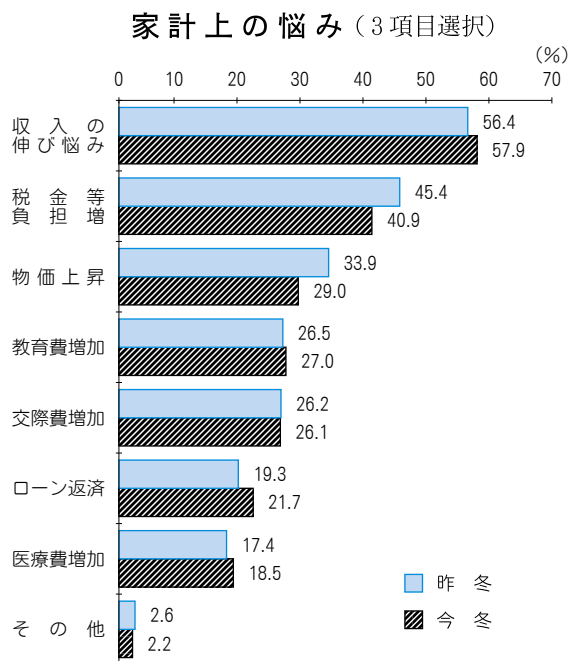


家計上の悩みは「収入の伸び悩み」が最多

家計上の悩み（3項目選択）は、「収入の伸び悩み」が最も多く、以下、「税金等負担増」、「物価上昇」と続いた。

1位の「収入の伸び悩み」は、回答比率が昨冬の56.4%から57.9%へと上昇しており、県内勤労者の多くが所得環境に厳しさを感じている状況が窺われる。景気が回復するなか、企業の業績は上向いてきているものの、賃金への波及は道半ばにある。

2位の「税金等負担増」および3位の「物価上昇」は、それぞれ昨冬と比較して低下した。その他の項目をみると、「ローン返済」、「医療費増加」、「教育費増加」が増加した一方、「交際費増加」はほぼ横ばいとなった。



2 今冬の買物計画

ゴルフ用品の購入意欲が高まる

この冬購入したい商品（20品目について複数回答）は、「婦人服」が最多で、以下、「紳士服」、「子供服」、「ハンドバッグ・靴」、「スマートフォン」と続いている。1位と2位は昨冬から順位の変動がなかったが、昨冬3位であった「ハンドバッグ・靴」が4位となり、昨冬4位であった「子供服」が3位へと順位を上げた。

昨冬と比べて購入予定比率が上昇した品目は「スマートフォン」、「暖房機器」、「家具・インテリア」、「ゴルフ用品」、「乗用車」などの8品目（昨冬10品目）であった。このうち、「ゴルフ用品」の上昇幅が比較的大きく、特に30代と40代の購入比率が上昇している。

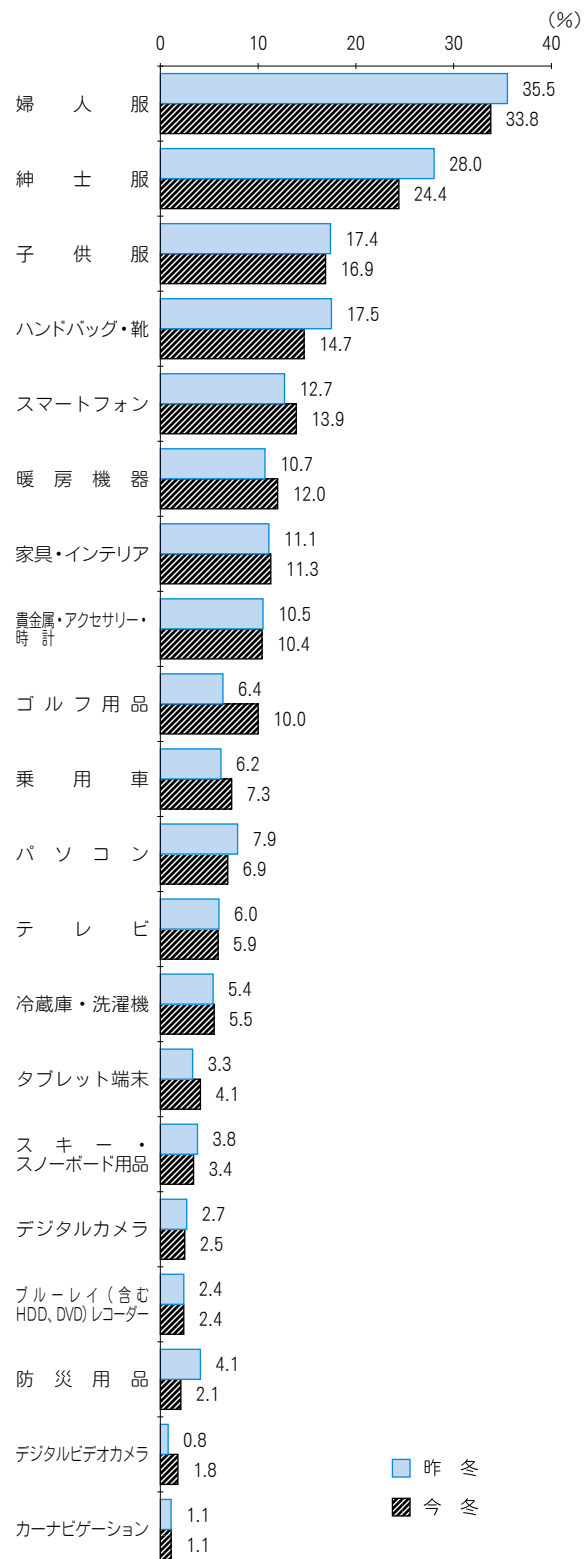
なお、このところ上位にランキングしている「スマートフォン」は、若年層の購入比率が高いが、昨冬との比較では50代以上の伸びが目立っている。

衣料品の購入予定比率が低下

購入予定比率が低下した品目は、「婦人服」、「紳士服」、「子供服」、「ハンドバッグ・靴」、「貴金属・アクセサリー・時計」、「パソコン」などの10品目（昨冬10品目）であった。

「婦人服」、「紳士服」、「子供服」の衣料3品目の購入予定比率がすべて低下しており、特に「紳士服」の低下が目立っている。また、パソコンやデジタルカメラが低下しているが、スマートフォンやタブレット端末の普及の影響が窺われる。

主要商品の購入予定状況（複数回答）



購入予定先はインターネットが過去最高順位

この冬購入したい商品の購入予定先（複数回答）は、「一般小売店」が最も多く、以下、「ホームセンター・大型専門店」、「インターネット」、「スーパー・ショッピングセンター」、「百貨店」と続いた。

昨冬と比較すると、「ホームセンター・大型専門店」、「スーパー・ショッピングセンター」、「百貨店」で比率が低下した一方、「一般小売店」、「インターネット」、「アウトレット」、「通

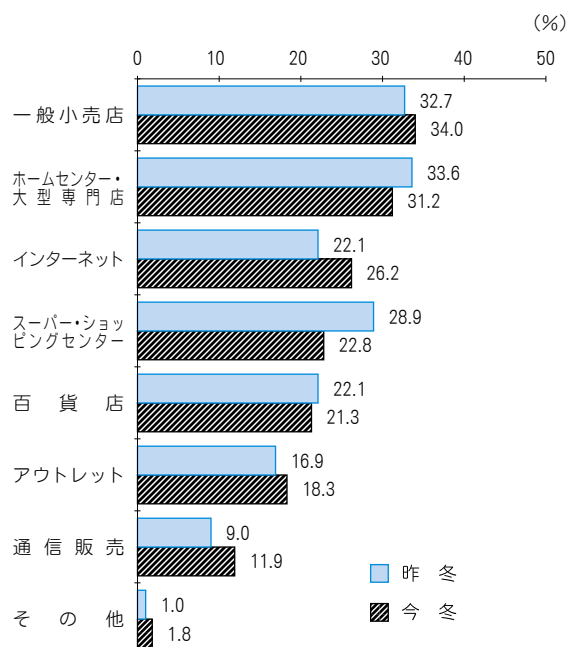
信販売」は上昇した。

このうち、「インターネット」は、昨冬と比べて比率が22.1%から26.1%に4ポイント上昇したほか、順位も5位から3位に浮上しており、比率、順位ともに同項目が選択肢に追加された2001年以降、最高となった。スマートフォンの普及等を背景に、インターネットが買い物の手段として広く定着してきていることが窺われる。

今冬購入予定の商品ベスト5

	全 体	20 代	30 代	40 代	50 代以上
1 位	婦 人 服	婦 人 服	婦 人 服	婦 人 服	婦 人 服
2 位	紳 士 服	ハ ン ド バ ッ グ・靴	子 供 服	子 供 服	紳 士 服
3 位	子 供 服	紳 士 服	紳 士 服	紳 士 服	暖房機器
4 位	ハ ン ド バ ッ グ・靴	貴 金 属・ ア クセサリ	家 具・ イ ン テ リ ア	暖房機器	家 具・ イ ン テ リ ア
5 位	スマートフォン	スマートフォン	ハ ン ドバ ッ グ・靴、 ス マ ー ト フ ォ ン (同順位)	ハ ン ド バ ッ グ・靴	ス マ ー ト フ ォ ン

購入予定の店舗（複数回答）



3 おけいこ事、塾・サークル

参加したいおけいこ事は「料理」が1位

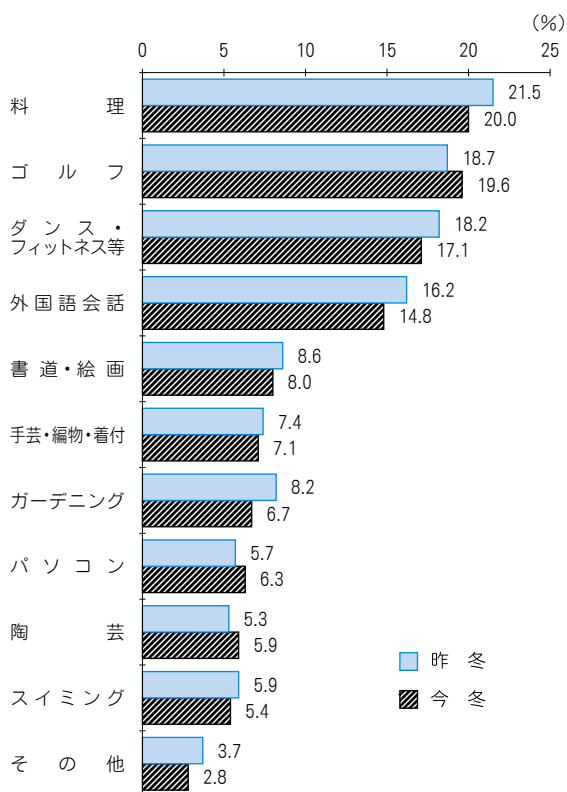
参加したいおけいこ事や塾・サークル（複数回答）は、「料理」が1位となり、以下、「ゴルフ」、「ダンス・フィットネス等」、「外国語会話」、「書道・絵画」、「手芸・編物・着付」の順となった。昨冬と比較すると、1位から5位までに順位の変動はなかったが、昨年6位であった「ガーデニング」が7位に後退し、「手芸・編物・着付」と順位が入れ替わった。

昨冬と比べて購入予定比率が上昇したのは、「ゴルフ」、「パソコン」、「陶芸」であった。一

方、下落したのは、「料理」、「ダンス・フィットネス等」、「外国語会話」、「書道・絵画」、「手芸・編物・着付」、「ガーデニング」、「スイミング」であった。

年代別に人気の高い項目をみると、20代では、「料理」、「ゴルフ」、30代では、「ゴルフ」、「料理」、40代では、「料理」、「ダンス・フィットネス等」、50代以上では、「ダンス・フィットネス等」、「ゴルフ」となっている。

やってみたいおけいこ事、塾・サークル
（複数回答）



やってみたいおけいこ事、塾・サークル
（複数回答）
(%)

	全体	20代	30代	40代	50代以上
料理	20.0	33.3	22.4	15.7	10.4
ゴルフ	19.6	27.0	25.2	14.9	12.7
ダンス・フィットネス等	17.1	17.9	18.9	15.3	16.6
外国語会話	14.8	22.2	16.1	13.3	8.8
書道・絵画	8.0	7.5	5.1	6.5	12.0
手芸・編物・着付	7.1	9.5	5.5	6.0	7.1
ガーデニング	6.7	2.8	6.7	6.9	9.7
パソコン	6.3	4.4	5.9	2.8	11.0
陶芸	5.9	4.8	3.1	7.7	7.8
スイミング	5.4	4.0	5.1	6.0	6.2
その他	2.8	2.8	2.8	2.8	2.9

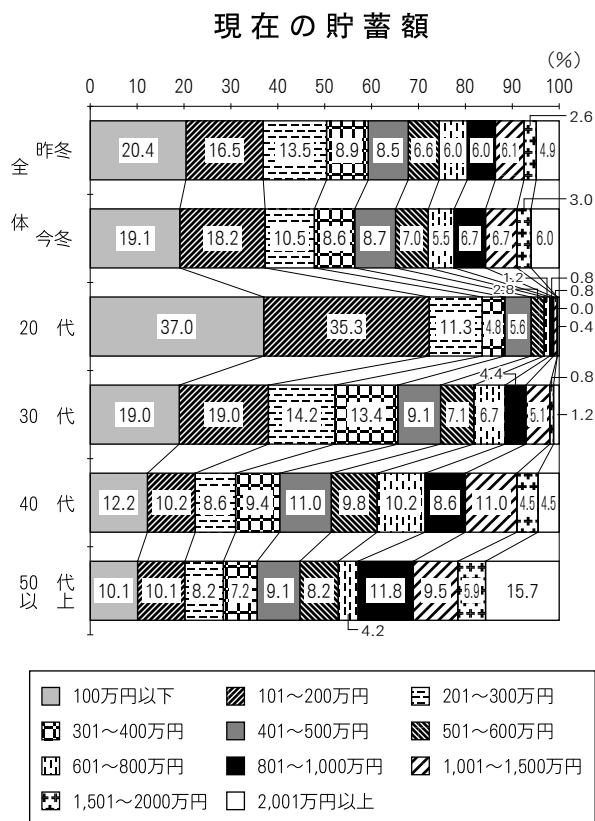
4 貯 蓄

平均貯蓄額は583万円

現在の貯蓄額の分布をみると、「100万円以下」が最も多く、以下、「101万円～200万円」、「201万円～300万円」、「401万円～500万円」の順となった。

また、平均貯蓄額は583万円（昨冬539万円）で、昨冬に比べて44万円増加した。

年代別の平均貯蓄額をみると、20代が194万円（昨冬比△15万円）、30代が400万円（同＋9万円）、40代が679万円（同＋92万円）、50代以上が981万円（同＋58万円）となっている。

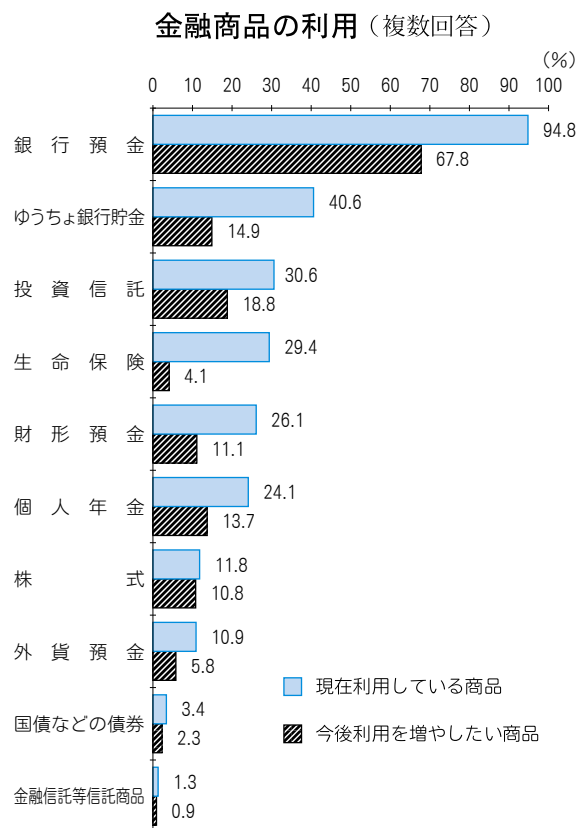


利用金融商品の最多は「銀行預金」

利用している金融商品（複数回答）は、「銀行預金」が94.8%と最も多く、以下、「ゆうちょ銀行貯金」、「投資信託」、「生命保険」、「財形預金」、「個人年金」の順となった。

昨冬と比較すると、「財形預金」、「外貨預金」、「投資信託」などの利用率が上昇した一方、「銀行預金」、「国債などの債券」などは低下した。

年代別に利用率をみると、「銀行預金」はすべての年代で90%超となり、いずれも高い比率を占めている。「ゆうちょ銀行貯金」、「国債などの債券」、「株式」、「生命保険」は年代が高くなるに連れて利用率が上昇している一方、「財形預金」は年代が低いほど利用率が高くなっている。また、昨冬と比較すると、「財形預金」、「外貨預金」はすべての年代で利用率が上昇している。



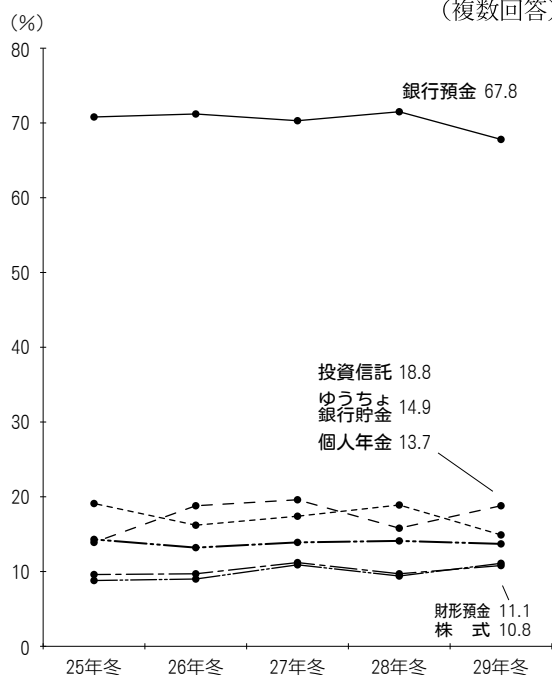
増やしたい金融商品は「投資信託」が上昇

今後増やしたい金融商品（複数回答）は、1位が「銀行預金」で、以下、「投資信託」、「ゆうちょ銀行貯金」、「個人年金」と続いた。

昨冬と比較すると、「投資信託」（昨冬比+ 3.0 ポイント）が伸びたほか、「財形預金」（同+ 1.7 ポイント）、「株式」（同+ 1.1 ポイント）などで比率が上昇した。一方、「ゆうちょ銀行貯金」（同△ 4.0 ポイント）、「銀行預金」（同△ 3.7 ポイント）、「生命保険」（同△ 2.9 ポイント）などで比率が低下した。

年代別にみると、1位が各年代とも「銀行預金」であり、2位が40代以下では「投資信託」、50代以上では「ゆうちょ銀行貯金」となっている。また、昨冬と比較して、「投資信託」はすべての年代で上昇した一方、「ゆうちょ銀行貯金」はすべての年代で低下している。

今後利用を増やしたい金融商品の推移
(複数回答)



収益性を重視する傾向

貯蓄をする際、重視する点（3項目選択）は、「元金の保証があり安心」が最多で、以下、「利回りが良い」、「預け入れ引き出しが自由」、「値上がりが期待できる」、「利用金融機関が自宅から近い」の順となり、「利回りが良い」、「値上がりが期待できる」の順位が上昇した。

各項目の比率を昨冬と比較すると、「預け入れ引き出しが自由」（昨冬比△ 7.4 ポイント）、「利用金融機関が自宅から近い」（同△ 3.6 ポイント）、「元金の保証があり安心」（同△ 2.0 ポイント）などが低下した一方、「利回りが良い」（同+ 4.2 ポイント）、「値上がりが期待できる」（同+ 2.9 ポイント）が上昇しており、好調な株式市場や低金利環境の継続などを背景に、流動性、利便性、安全性よりも収益性を重視する傾向が窺われた。

上位項目を年代別にみると、「元金の保証があり安心」、「預け入れ引き出しが自由」は年代が高くなるに連れて比率が上昇している。昨冬と比較すると、「利回りが良い」がすべての年代で上昇した一方、「預け入れ引き出しが自由」はすべての年代で低下している。

貯蓄する際重視する点（3項目まで選択）
(%)

	全 体	20 代	30 代	40 代	50 代以上	昨冬順位
元 金 の 保 証 が あ り 安 心	64.2	54.4	64.2	66.5	70.5	1
利 回 り が 良 い	48.5	48.4	52.0	45.6	48.1	3
預 け 入 れ 引 き 出 し が 自 由	41.0	38.9	40.2	41.9	42.5	2
値 上 が り が 期 待 で き る	24.0	29.4	25.6	20.2	21.4	5
利 用 金 融 機 関 が 自 宅 か ら 近 い	20.5	15.9	19.3	23.4	23.1	4
利 用 金 融 機 関 の サ ー ビ ス が 良 い	13.0	15.5	11.4	11.7	13.3	6
勤 務 先 が 利 用 金 融 機 関 と 取 引 し て い る	8.1	7.5	6.7	10.5	7.8	8
利 用 金 融 機 関 が 勤 務 先 か ら 近 い	5.1	5.6	4.3	6.5	4.2	7
利 用 金 融 機 関 に 友 人、知 人 が い る	4.7	4.8	3.1	6.0	4.9	9
利 用 金 融 機 関 が 集 金 に き て く れ る	2.0	0.4	1.2	2.4	3.6	10
そ の 他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	—

5 ローン等の利用

平均借入額は1,152万円

ローン等の利用状況をみると、利用者は27.0%で、平均借入額は1,152万円となった。

利用目的（複数回答）は、「土地・住宅の購入」が最も多く、以下、「自動車・家電品の購入」、「教育資金」と続いた。

昨冬と比較すると、利用者の比率は0.5ポイント上昇したが、平均借入額は61万円減少した。また、利用目的では、「教育資金」、「自動車・家電品の購入」、「その他」、「土地・住宅の購入」の比率が上昇した反面、「旅行・レジャー」、「教育資金以外の生活資金」は低下した。

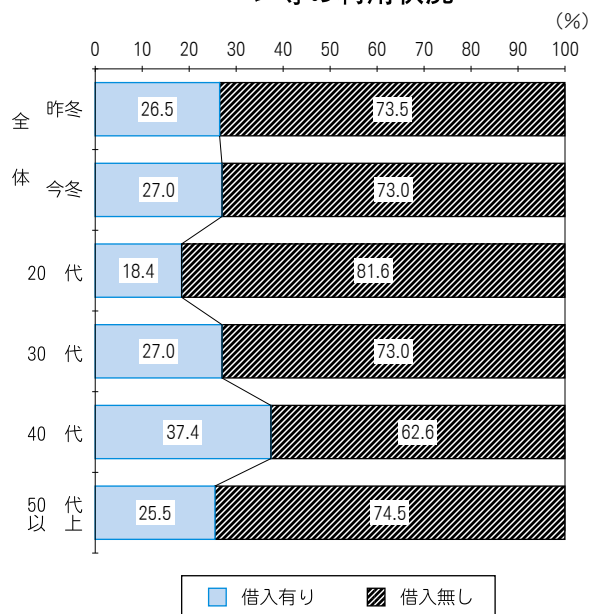
一方、借入先（複数回答）は、「銀行」が最も多く、以下、「月賦・クレジット会社」、「銀行以外の金融機関」の順となった。昨冬と比較すると、「政府系金融機関」、「銀行」、「銀行以外の金融機関」の比率が上昇した一方、「月賦・クレジット会社」、「その他」は低下した。

これらを年代別にみると、ローン利用者はマイホーム需要が高まる40代が最も多く、以下、30代、50代以上、20代の順となっており、平均借入額は、20代251万円、30代1,521万円、40代1,430万円、50代以上1,122万円となった。

また、利用目的は、20代で「自動車・家電品の購入」、30代以上で「土地・住宅の購入」がそれぞれ最多となっている。

なお、借入先は、すべての年代で「銀行」が1位となっているが、2位は20代で「その他」、30代、50代以上で「月賦・クレジット会社」、40代で「銀行以外の金融機関」となっている。

ローン等の利用状況



ローン等の借入先・利用目的

（複数回答）

(%)

		全 体	20 代	30 代	40 代	50 代以上
利 用 目 的	土地・住宅の購入	65.4	15.2	64.7	83.7	74.0
	自動車・家電品の購入	27.9	54.3	35.3	19.6	15.6
	教 育 資 金	11.7	17.4	2.9	12.0	15.6
	教育資金以外の生活資金	2.5	4.3	2.9	0.0	3.9
	旅 行 ・ レ ジ ャ ー	2.1	6.5	0.0	3.3	0.0
	財 テ ク 資 金	0.7	2.2	0.0	0.0	1.3
	そ の 他	4.2	6.5	2.9	1.1	7.8
借 入 先	銀 行	66.1	37.0	67.6	70.7	76.6
	月賦・クレジット会社	14.1	19.6	14.7	12.0	13.0
	銀行以外の金融機関	12.0	13.0	7.4	16.3	10.4
	住宅金融支援機構等 政府系金融機関	7.8	2.2	4.4	9.8	11.7
	勤 務 先	1.8	0.0	1.5	3.3	1.3
	そ の 他	6.0	26.1	2.9	2.2	1.3

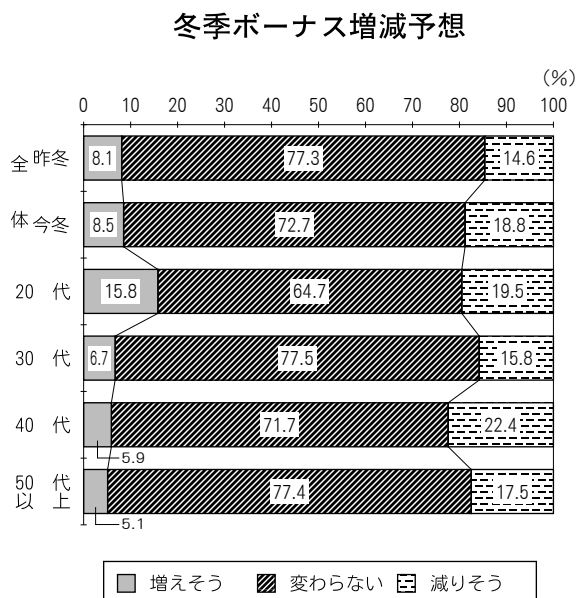
6 冬季ボーナス

手取り額予想は減額が増額を上回る

昨冬と比べた今冬のボーナス（手取り額）の予想は、「増えそう」が8.5%、「減りそう」が18.8%となり、引き続き「減りそう」が「増えそう」を上回った。

両比率の差（「増えそう」－「減りそう」）は、△10.3と昨冬の△6.5から3.8ポイント悪化した。県内企業の業況が全体として緩やかな回復にとどまるなか、勤労者は今冬のボーナス支給について慎重な見方をしている様子が窺われる。

年代別にみると、すべての年代で「減りそう」の比率が「増えそう」の比率を上回った。特に20代、40代で「減りそう」の回答比率が各々9.9、8.2ポイント上昇しており、その結果、20代で4年ぶりに「減りそう」の比率が「増えそう」の比率を上回ったほか、40代では両比率の差が拡大している。



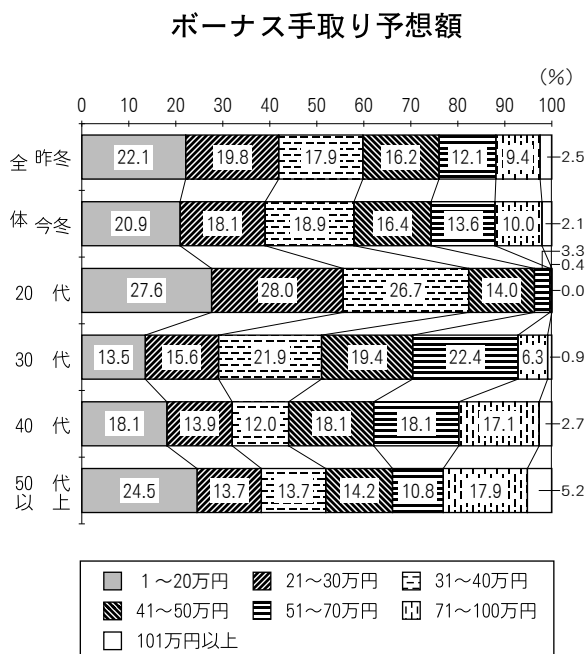
平均手取り予想額は39万5千円

手取り予想額は、「1～20万円」が最も多く、以下、「31～40万円」、「21～30万円」、「41～50万円」の順となった。

昨冬と比較すると、「31～40万円」、「41～50万円」、「51～70万円」、「71～100万円」の比率が上昇、「1～20万円」、「21～30万円」、「101万円以上」の比率が低下した。

この結果、平均手取り予想額は39万5千円（昨冬38万5千円）と、昨冬に比べて1万円の増加となった。

年代別にみると、20代が27万7千円（昨冬29万3千円）、30代が41万3千円（同41万5千円）、40代が46万1千円（同43万3千円）、50代以上が44万5千円（同41万8千円）で、昨冬比では40代、50代以上が各々2万8千円、2万7千円の増加となった一方、20代、30代が各々1万6千円、2千円の減少となっている。



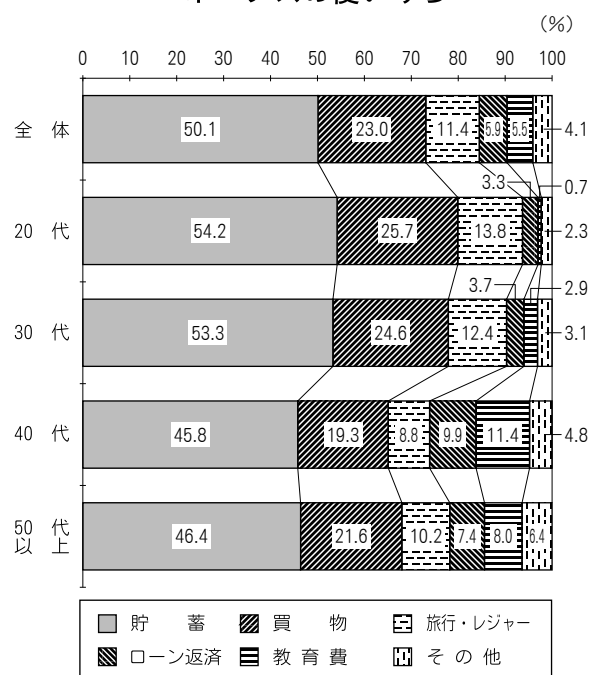
「貯蓄」への配分割合が低下

ボーナスの使いみちは、「貯蓄」の比率が最も高く、次いで「買物」、「旅行・レジャー」、「ローン返済」となった。

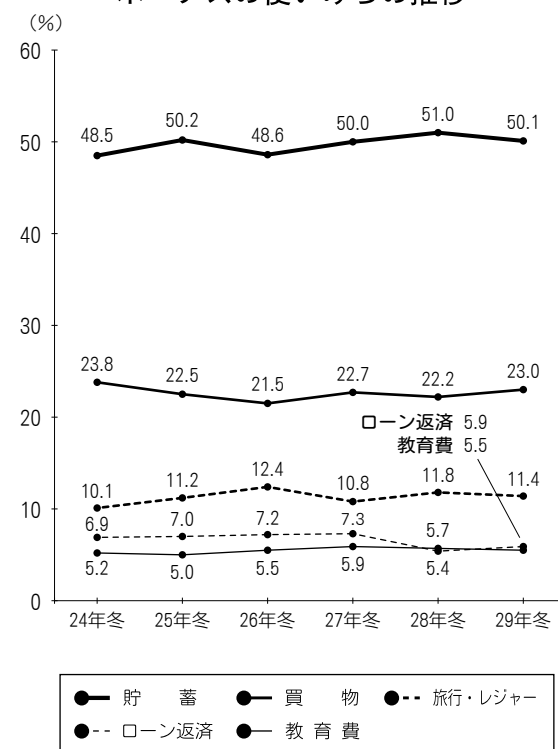
昨冬と比較すると、「買物」、「ローン返済」の比率が上昇した一方で、「貯蓄」、「旅行・レジャー」、「教育費」の比率は低下した。なお、「貯蓄」への配分割合は3年ぶりに低下したものの、依然5割超を維持している。

年代別にみると、各年代とも1位、2位は「貯蓄」、「買物」の順となったが、3位は20代、30代、50代以上が「旅行・レジャー」、40代が「教育費」となった。昨冬と比較すると、「貯蓄」の比率は20代、30代で上昇した一方、40代以上で低下しており、若い年代が将来に備えてボーナスの貯蓄割合を高めている様子が窺われる。

ボーナスの使いみち



ボーナスの使いみちの推移



7 お歳暮

贈る件数は平均 3.8 件

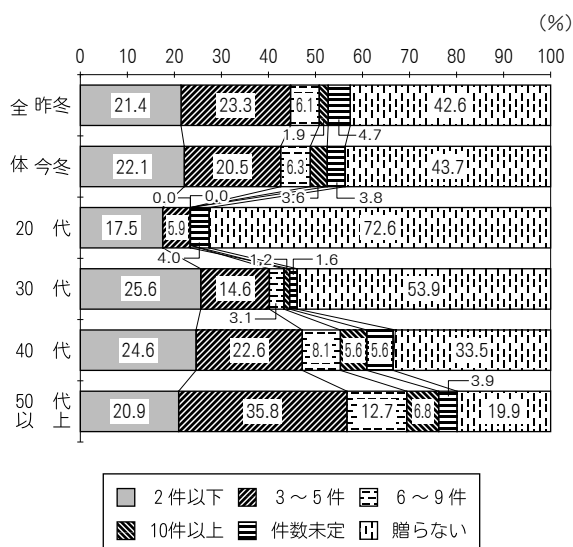
今冬、お歳暮を贈る予定のある人は 56.3%で、昨冬（57.4%）と比べて低下した。

贈る件数は「2 件以下」が最も多く、以下、「3～5 件」、「6～9 件」、「件数未定」、「10 件以上」の順となった。昨冬と比較して、「3～5 件」が低下した一方、「10 件以上」が上昇しており、平均贈答件数は 3.8 件（昨冬 3.6 件）と、昨冬を 0.2 件上回った。

年代別にみると、贈る予定のある人の比率は 20 代が 27.4%に止まっている一方、30 代は 46.1%、40 代は 66.5%、50 代以上は 80.1%となっており、年齢が高くなるに連れてお歳暮を贈る比率が高くなっている。

また、贈る件数は、20 代、30 代、40 代では「2 件以下」が、50 代以上では「3～5 件」がそれぞれ最も多くなっており、年代別の平均贈答件数は、20 代が 2.1 件、30 代が 3.0 件、40 代が 4.0 件、50 代以上が 4.4 件となっている。

お歳暮を贈る件数



平均単価は 4,071 円、平均予算は 15,489 円

1 件あたりの単価は、「5,000 円程度」が 43.1%と最も多く、次いで「3,000 円程度」が 41.5%となっており、この両者で 8 割超を占めた。

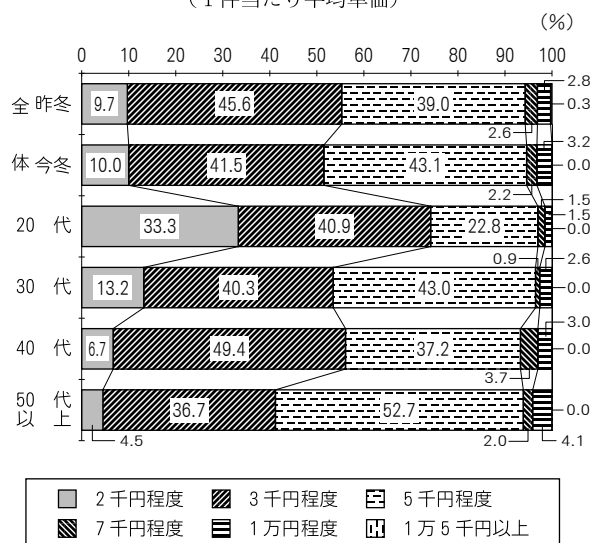
昨冬と比較すると、「3,000 円程度」、「7,000 円程度」などの比率が低下した一方、「5,000 円程度」、「10,000 円程度」などの比率は上昇しており、平均単価は 4,071 円と、昨冬（4,011 円）と比べて 60 円上昇した。

このように、平均贈答件数が昨冬を上回り、平均単価も上昇したことから、平均予算総額は 15,489 円と昨冬（14,458 円）に比べて 1,031 円増加した。

なお、年代別の平均単価は、20 代が 3,283 円、30 代が 3,949 円、40 代が 4,035 円、50 代以上が 4,376 円となっており、また、平均予算総額は、各々 6,905 円、11,862 円、16,160 円、19,276 円となった。

お歳暮の相場

(1 件当たり平均単価)



定番商品の支持率が低下

お歳暮に贈りたい商品（5品目まで選択）は、「ビール」（含むビール券、以下同じ）が最多で、以下、「ハム」、「お菓子」、「食用油」、「直送生鮮品」の順となった。昨冬と比較すると上位4品目は同順位となっているものの、5位から20位までのうち12品目で順位が変動した。

支持率をみると、上昇した品目は8品目で、このうち「煮貝」（昨冬比+3.9ポイント）、「カタログギフト」（同+2.6ポイント）の上昇が目立っている。一方、低下した品目は12品目で、昨冬の上位5品目である「ビール」、「ハム」、「お菓子」、「食用油」、「調味料」が各々3.5、1.1、4.5、1.6、4.8ポイントの低下と、定番商品が軒並み低下した。

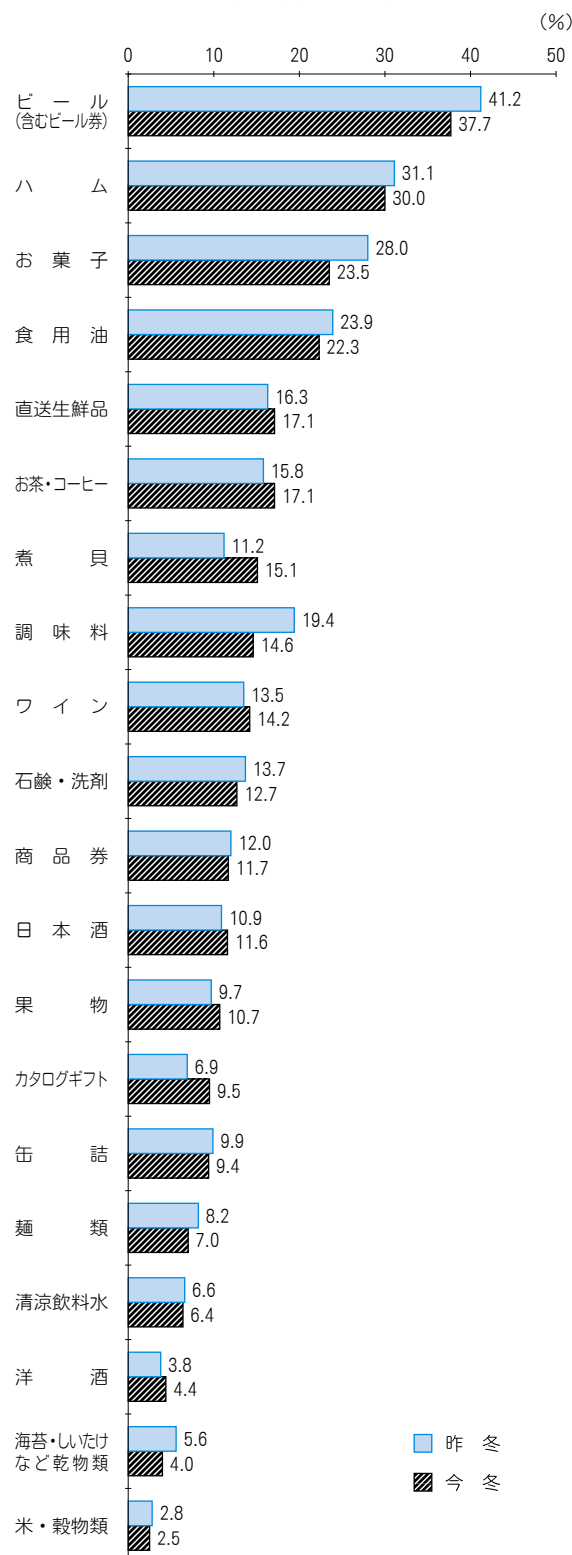
年代別にみると、各年代とも1位は「ビール」となっている。支持率を昨冬と比べると、20代で「カタログギフト」の上昇および「ビール」、「調味料」の低下、30代で「食用油」の低下、50代以上で「お菓子」の低下が目立っている。

お歳暮に贈りたい商品ベスト5

順位	20代	30代	40代	50代以上
1	ビール (含むビール券)	ビール (含むビール券)	ビール (含むビール券)	ビール (含むビール券)
2	お菓子	ハム	ハム、 お菓子 (同順位)	ハム
3		お菓子		食用油
4	ハム、 食用油、 お茶・コーヒー (同順位)	食用油、 調味料 (同順位)	食用油	直送生鮮品
5			直送生鮮品	煮貝、 お茶・コーヒー (同順位)

お歳暮に贈りたいもの

（5品目まで選択）



8 冬休み、年末・年始の過ごし方

旅行を控える傾向に

冬休み、年末・年始の過ごし方（複数回答）は、「日帰り旅行」が31.9%を占め最多となり、以下、「帰省」、「国内宿泊旅行」、「スポーツ・健康づくり」、「海外旅行」の順となった。なお、「特に予定なし」は、40.1%となっている。

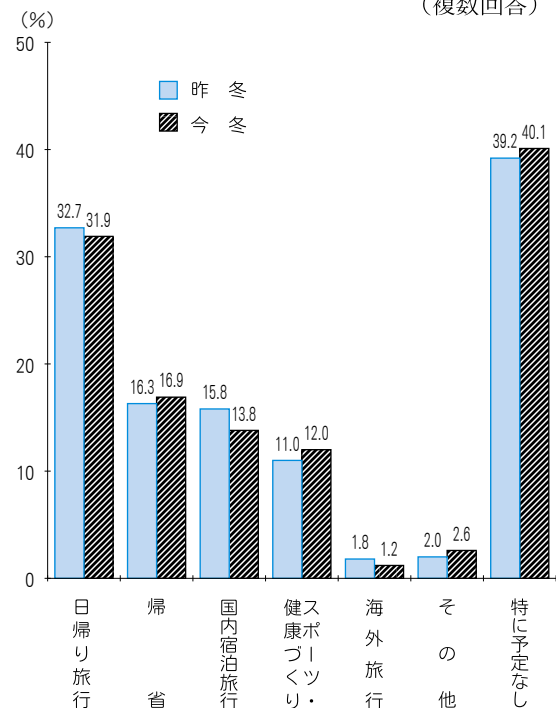
昨冬と比較すると、「国内宿泊旅行」（昨冬比△2.0ポイント）、「日帰り旅行」（同△0.8ポイント）、「海外旅行」（同△0.6ポイント）と、旅行への回答割合が低下した。一方、「スポーツ・健康づくり」（同+1.0ポイント）、「帰省」（同+0.6ポイント）は上昇した。

年代別にみると、20代、30代では「日帰り旅行」が、40代以上では「特に予定なし」が最多となっている。昨冬と比較すると、20代で「特に予定なし」の上昇が、30代で「帰省」の上昇、「国内宿泊旅行」の減少が、40代で「帰省」の低下が目立っている。

一方、「国内宿泊旅行」の宿泊日数をみると、「1泊」が57.5%を占め、以下、「2泊」（36.3%）、「3泊」（5.0%）、「4泊以上」（1.3%）の順となった。昨冬と比べると、「1泊」（同△7.8

冬休み、年末・年始の過ごし方

（複数回答）



ポイント）が低下した一方、「2泊」（同+6.5ポイント）、「3泊」（同+1.0ポイント）が上昇している。

冬休み、年末・年始の過ごし方（複数回答）

(%)

	日帰り旅行	帰省	国内宿泊旅行	スポーツ・健康づくり	海外旅行	その他	特に予定なし
20代	44.0	13.5	17.1	17.5	2.0	0.8	35.3
30代	35.4	22.4	14.2	11.8	1.6	2.4	29.9
40代	27.0	20.2	14.1	9.3	1.2	3.6	40.7
50代以上	23.1	12.7	10.7	9.7	0.3	3.6	51.9
全体	31.9	16.9	13.8	12.0	1.2	2.6	40.1

山梨中銀 自分にピッタリのコースではじめよう!

資産づくり応援!キャンペーン

期間 平成29年12月1日(金)～平成30年3月31日(土)

対象 対象商品をご契約いただいた個人のお客さま(新規または増額の契約を対象とさせていただきます)

NISA・つみたてNISA
口座開設のお客さまには

500円プレゼント! (ジュニアNISAのお客さまには
クオ・カード500円分プレゼント!)

コツコツ!
応援コース

まとめて!
応援コース

WEBでラクラク!
応援コース

インターネット投信・インターネットバンキング限定

特典
1 先着4,500名様に
いずれかおひとつプレゼント!

スノーフォレストブランケット



富士山柄
トートバッグ



または

色はレッド・ブルー2色から
おひとつお選びください。

※在庫によっては、お選びいただけない場合があります。

※キャンペーン期間中、景品はお一人さまおひとつとさせていただきます。

特典
1

手数料
キャッシュバック

※ノーロード商品は特典1の対象外となり、特典2のみ対象となります。
※キャンペーン期間中に解約の場合は対象外になります。

さらに!

特典
2 話題の人気商品が当たるダブルチャンス!
合計10名様に抽選でプレゼント!

1等

ダイソン
サイクロン
掃除機
(DC48 タービンヘッド)



2名様

2等

バーミキュラ
オープンポット
ラウンド
(18cm パールグレー)



3名様

3等

パナソニック
車載用ナノイー
発生機
(F-GMK01-W)



5名様

●対象商品のご購入金額に応じて抽選権をお付けいたします。応募の手続きは不要です。●キャンペーン終了後、当行所定の方法により、厳正な抽選を行います。キャンペーン期間中に
ご解約の場合、抽選権は無効となります。●色をお選びいただくことはできませんので、ご了承ください。●当選者の発表は景品の発送をもって代えさせていただきます。(平成30年6月上
旬発送予定)●転居先不明などで連絡が取れない場合は、当選を無効とさせていただきます。

株式会社山梨中央銀行 / 登録金融機関 関東財務局長(登金)第41号 / 加入協会 日本証券業協会

ホームページへアクセス

山梨中銀

検索



皆さまに役立つ情報を
いち早くお届けします。

LINE@

@yamanashibank



店頭またはATMコーナーに、
くわしいキャンペーン内容を記載した
リーフレットをご用意しております。

くわしくは山梨中央銀行の窓口 または フリーダイヤルへどうぞ
ふ れ あ い ハ ロ ー に

0120-201862 照会コード 9

(受付時間)月曜日～金曜日 9:00～17:00(ただし、祝日・12/31～1/3は除きます。)

山梨中央銀行

https://www.yamanashibank.co.jp/
(平成29年12月1日現在)